

編集 後記

本号は50周年を迎えた本誌の50巻1号にふさわしく、気鋭の研究者による論文が揃ったすばらしい内容となりました。大学医学部、医科大学に所属する研究者だけではなく、多彩な研究機関の研究者が著者に顔を揃えていることも、公衆衛生学の取り組むべき課題の多様化を象徴しているように感じます。

日本は、今、未曾有の景気後退に直面し、全ての面で大きな改革を迫られています。公衆衛生の分野も例外ではありません。巻頭の論壇で議論されている地方分権改革推進会議な大きな流れのなかの一つでしょうか。

また、近年の大学改革に伴って多くの医学部、医科大学から公衆衛生学や衛生学の名称が消えつつあります。これも時代の流れに伴う必要な改革と受け止めざるを得ないのでしょうか？

しかし、公衆衛生学という名称に先人が込められてきた高い理想と高邁な精神を他の名前で表し尽くすことは難しいでしょう。日本公衆衛生学会が発行する日本公衆衛生学雑誌が、わが国の公衆衛生の伝統のもとに、公衆衛生学の理想をさらに高く掲げて前進することを祈って、記念すべき本号の編集後記としたいと思います。

(秋葉澄伯)

次号予告

論壇

生態的健康観

21世紀の健康観……………野尻雅美

総説

日本の学校における喫煙防止教育の評価に関する研究の現状と課題……………嶋政弘, 他

原著

在宅高齢者における生活機能に関連する要因

……………神宮純江, 他

思春期の肥満に対する乳幼児期の体格と生活習慣の関連母子保健長期縦断研究から

……………石原融, 他

公衆衛生活動報告

市町村の訪問指導および訪問看護ステーションによる訪問看護の利用希望の影響する要因の分析……………中山文子, 他

資料

人獣共通感染症のベクターサーベイランスシステムの国際比較検討……………高橋央, 他

短期減量指導プログラム実施後の体重変化と生活習慣要因の関連……………光橋悦子, 他

疫学辞典 第3版

A5判282頁 定価 本体2,900円(税別) 送料実費

国際疫学学会後援図書

John M. Last 編

日本疫学会 訳

翻訳顧問 重松逸造 青木國雄

監 訳 柳川 洋 田中平三 箕輪眞澄

国際疫学学会編集「A Dictionary of Epidemiology」の日本疫学会による日本語版翻訳

本辞典は疫学に関心のあるすべての人、疫学の勉強を開始した人、疫学の用語を知る必要がある人に向けたものである。

疫学の用語の概念、原理、方法、手順を正確に記述したものの。

▶ご注文・お問い合わせは

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目29番8号

財団法人 日本公衆衛生協会

TEL 03-3352-4281 (代表)

FAX 03-3352-4605